

2022年3月期の業績について

■ 損益の状況

2022年3月期連結決算において、経常収益は、前期比11億円減少して427億円となりました。その内訳は次のとおりです。資金運用収益は、貸出金利息および有価証券利息配当金の減少等により前期比26億円減少、役員取引等収益は前期比5億円減少、その他業務収益は、外国為替売買益や金融派生商品収益の増加等により前期比20億円増加しました。

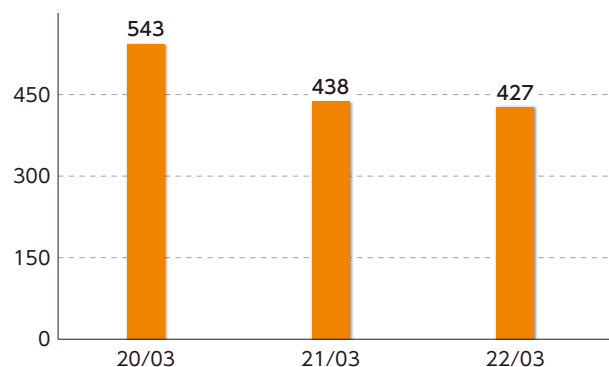
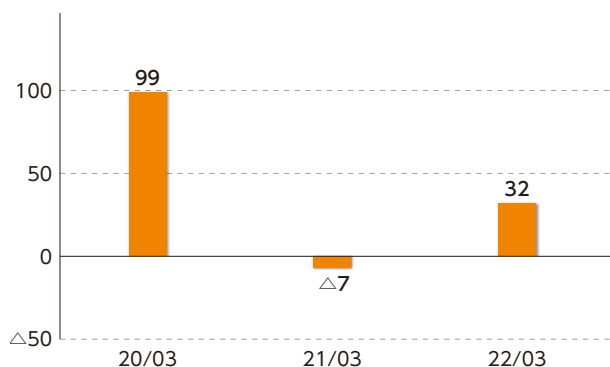
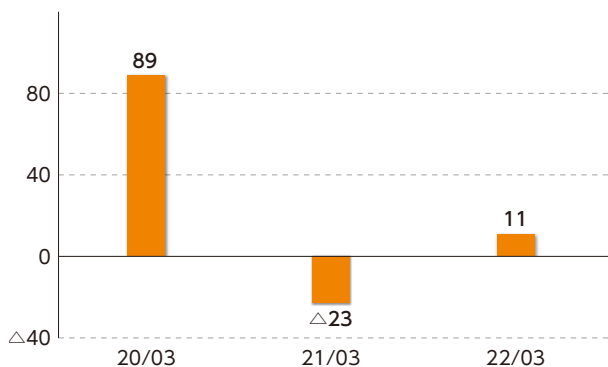
また、経常費用は、前期比51億円減少して394億円となりました。その内訳は次のとおりです。資金調達費用は、預金利息の減少等により前期比4億円減少、役員取引等費用は前期比2億円減少、その他業務費用は外国為替買損の減少等により前期比2億円減少、営業経費は人件費や店舗関連費用の圧縮等により

前期比31億円減少、信用コスト（貸出金償却、貸倒引当金繰入額、債権売却損）は前期比9億円減少しました。

以上の要因により、経常利益は前期の経常損失7億円から転じて32億円の利益となりました。

また、特別損益では、特別損失が前期比18億円減少した（前年度には事業構造の再構築に要する費用19億円を計上していたもの）ことから、税金等調整前当期純利益は前期の純損失26億円から転じて31億円の純利益となりました。法人税等合計が前期比22億円増加したことで、親会社株主に帰属する当期純利益は前期の純損失23億円から転じて11億円の純利益となりました。

経常収益(連結) (億円)

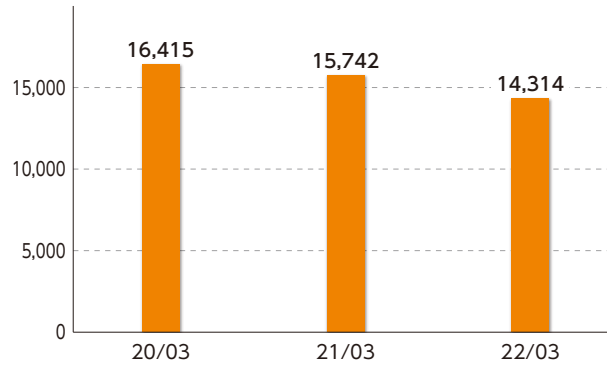
経常利益(連結)
(△は経常損失) (億円)親会社株主に帰属する当期純利益(連結)
(△は親会社株主に帰属する当期純損失) (億円)

■ 財政の状況

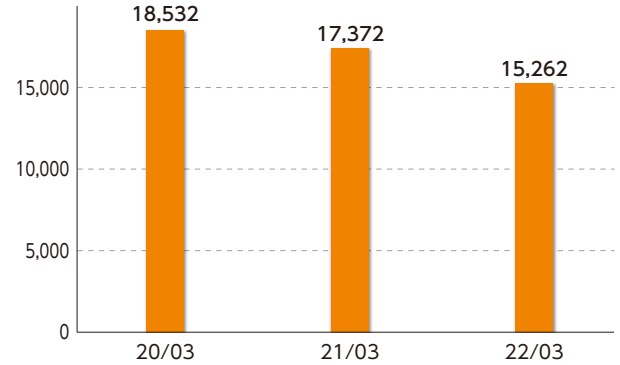
2022年3月期において、貸出金の当期末残高は、前期末比1,428億円減少の1兆4,314億円となりました。有価証券の当期末残高は、

前期末比227億円減少の1,688億円となりました。預金残高の当期末残高は、前期末比2,110億円減少の1兆5,262億円となりました。

貸出金残高(連結) (億円)



預金残高(連結) (億円)



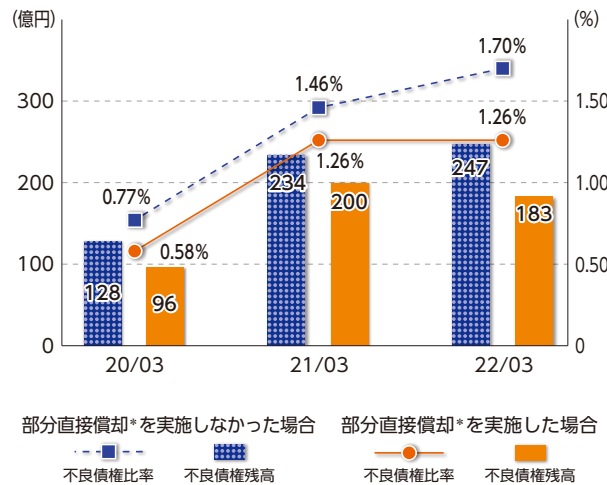
■ 不良債権比率

2022年3月期末における金融再生法開示債権比率(いわゆる不良債権比率)は、部分直接償却*を実施しなかった場合では前期末比0.24%上昇し1.70%、部分直接償却を実施した場合では前期末比同様1.26%となりました。

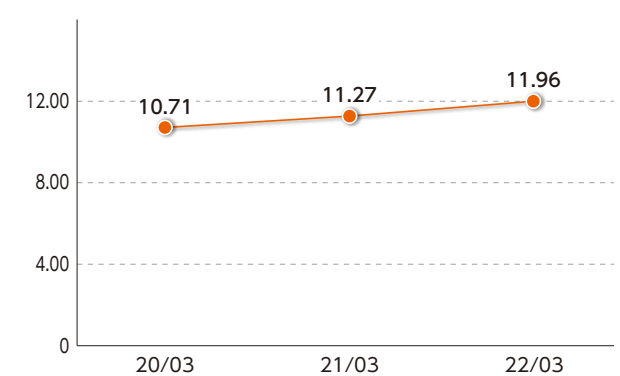
■ 自己資本比率

2022年3月期末の連結自己資本比率は11.96%となりました。当行ならびに当行グループは、国内業務のみを営む金融機関として、金融庁の告示に基づき4%の自己資本比率を維持することが求められておりますが、その基準を大幅に上回り、健全な水準を維持しています。

不良債権残高・比率(連結) (億円、%)



自己資本比率(国内基準、連結) (%)



*部分直接償却とは

破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権等について、資産の自己査定基準に基づき、債権額から担保の評価額および保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額する会計処理のことをいいます。